

教科名	社会科	科目名	地理 歴史	
対象学年	中学1年	コース・選択	—	
単位数	3時間/週	教科書 (出版社)	『新しい社会 地理』 (東京書籍) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) 『新中学校 歴史 日本の歴史と世界』 (清水書院)	
使用教材	ワーク『新しい社会 基礎・基本徹底ワーク 地理 世界編』(東京書籍) 白地図『新しい社会 基礎・基本徹底白地図ノート 地理 世界編』(東京書籍) 問題集『ウイニング 歴史 I』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)			
学習のねらい	<p>地理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 ・世界の地域や国々の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 <p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始・古代から中世に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的つながりを理解する。 ・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。 			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	『新しい社会』 第1編 世界のさまざまな地域 第1章 世界のすがた	10月	第5節 南アメリカ州 第6節 オセアニア州
	5月	第2章 世界各地の人々の生活と環境 世界のさまざまな住居 1 雪と氷の中で暮らす人々 2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 3 温暖な土地に暮らす人々 4 乾燥した土地に暮らす人々 5 常夏の島で暮らす人々 6 標高の高い土地で暮らす人々		『新中学校 歴史 日本の歴史と世界』 第1章 原始・古代の日本と世界 1 文明のおこりと日本のはじまり 1 ヒトがあらわれるまで 2 定住して生きる人々
	6月	7 世界に見られるさまざまな気候と広がり 8 人々の生活に根付く宗教 9 伝統的な生活とその変化 第3章 世界の諸地域 第1節 アジア州 第2節 ヨーロッパ州 1 ヨーロッパ州をながめて 2 ヨーロッパ文化の共通性	11月	3 大河が生んだ文明～ 8 古墳文化とヤマト王権の統一 2 律令国家の成立 1 隋・唐王朝とイスラーム帝国
	7月	3 進むヨーロッパ統合 4 ヨーロッパの課題とロシア連邦 ヨーロッパ州の学習を振り返ろう	12月	2 聖徳太子の政治と飛鳥文化～ 6 大陸の影響を受けた文化
	9月	第3節 アフリカ州 第4節 北アメリカ州	1月	3 貴族の政治と武士の登場 1 平安京へ都を移す～ 4 国風文化 第2章 中世の日本と世界 1 武士の政権と東アジアのうごき 1 宋王朝とモンゴル帝国 2 平氏政権と日宋貿易
			2月	3 鎌倉幕府の成立と執権政治～ 6 元寇と鎌倉幕府の滅亡 2 武家社会の展開と民衆
			3月	
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 ・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史(愛知県など)についても、随時取り上げる。 			

教科名	社会科	科目名	地理 歴史	
対象学年	中学2年	コース・選択	—	
単位数	3単位	教科書 (出版社)	『新しい社会 地理』(東京書籍) 『中学校社会科地図』(帝国書院) 『新中学校 歴史 日本の歴史と世界』 (清水書院)	
使用教材	ワーク『新しい社会 基礎・基本徹底ワーク 地理 日本編』(東京書籍) 白地図『新しい社会 基礎・基本徹底白地図ノート 地理 日本編』(東京書籍) 問題集『ウイニング 歴史Ⅰ・Ⅱ』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)			
学習のねらい	<p>地理</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 日本の地域の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 <p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> 近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。 			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	『新しい社会 地理』 第2編 日本のさまざまな地域 第1章 日本のすがた 第2章 世界から見た日本のすがた 1 世界から見た日本の自然環境 2 世界から見た日本の人口	10月	7節 北海道地方 第4章 身近な地域の調査 『新中学校 歴史 日本の歴史と世界』 第3章 近世の日本と世界 1 ヨーロッパの拡大とアジアの交易 2 戦国大名と全国統一
	5月	3 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 4 世界と日本の結びつき	11月	3 江戸幕府の成立と進展
		第3章 日本の諸地域 1節 九州地方	12月	4 産業の発達と町人の文化
	6月	2節 中国・四国地方 3節 近畿地方	1月	5 社会の変動と欧米諸国の接近 第4章 近代化の進む世界と日本 1 近代社会の成立
	7月	4節 中部地方	2月	2 開国と江戸時代の終わり
9月	5節 関東地方 6節 東北地方	3月		
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> 地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史(愛知県など)についても、随時取り上げる。 			

教科名	社会科		科目名	歴史・公民		
対象学年	中学3年		コース・選択	—		
単位数	4時間/週		教科書 (出版社)	『新中学校 歴史』(清水書院) 『中学社会公民』(教育出版)		
使用教材	問題集『ウイニング 歴史Ⅱ』(好学出版)、「新ワーク」(好学出版) 資料集『改訂資料カラー歴史』(浜島書店)、「公民の資料」(正進社)					
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 ・現代日本の政治・経済について基礎的な理解を図り、時事的な問題に対しても関心が持てるようにする。 					
学習内容と流れ	学期・月等	単 元		学期・月等	単 元	
	4月	『新中学校 歴史』 第4章 近代化の進む世界と日本 3 明治維新と文明開化 4 立憲政治のはじまり 5 アジアの近代化と日本の動き		10月	第3章 私たちの暮らしと民主政治	
	5月	6 日本の産業革命と社会の変化 第5章 二つの世界大戦と日本		11月	第3章 私たちの暮らしと民主政治(続)	
	6月	第6章 現代の日本と世界		12月	第4章 私たちの暮らしと経済	
	7月	第6章 現代の日本と世界(続)		1月	第4章 私たちの暮らしと経済(続)	
	9月	『中学社会公民』 第2章 人間を尊重する日本国憲法		2月	第5章 安心して暮らせる社会	
			3月	第6章 国際社会に生きるわたしたち		
学習の留意点・評価など	歴史分野については、地域の素材も適宜取り上げる。 公民分野については、新聞レポートなどを適宜課す。					

教科名	地理歴史科	科目名	世界史 A	
対象学年	高校 1 年	コース・選択	必修	
単位数	2 単位	教科書 (出版社)	世界史 A (東京書籍)	
使用教材	世界史 A (東京書籍) 最新世界史図説タペストリー (帝国書院)			
学習のねらい	世界の諸地域が相互に影響しながら、どのように歴史を展開してきたかを近・現代史を中心に考える。現代世界の特質と人類の歴史を関連づけることができる歴史的思考力を養い、現代社会の国際的諸問題に積極的に関わることができる地球市民を育成する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	4 月	世界の地域区分を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 世界史学習の導入として、世界の地域区分を理解する。 ヨーロッパとアジアが会おうイスタンブルの聖ソフィア寺院の壁画に注目し、キリスト教とイスラームの文化の影響を受けながらイスタンブルが歴史を歩んだことに気づかせる。 	キリスト教とイスラームに関する写真を読み取らせ、特徴を把握させる。なぜ、キリスト教とイスラームが混在しているかを考えさせる。
	5 月	歴史地図から歴史の大きな流れを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史地図を読み取り、ヨーロッパの古代から中世までの歴史の大きな流れを把握する。 	歴史地図を読み取り、表現する。
	6 月	ヨーロッパ：近世	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代の背景をおさえた上で、新航路の開拓は重商主義政策を推進する絶対王政と深く結びついていることを理解する。新航路の発見が世界貿易システムに与えた影響について考える。さらに、宗教改革の背景をとらえ、それがヨーロッパに与えた影響を考える。宗教紛争を経て、ヨーロッパに主権国家が確立されたことを理解する。 	絵画資料からプロテスタントの特徴を読みとり、表現させる。
	7 月	大西洋世界の変容とその波及 ・ヨーロッパとアメリカの諸革命	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ独立革命とフランス革命の過程とその影響について理解させる。 	

学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
9月	大西洋世界の変容とその波及 ・ヨーロッパとアメリカの諸革命 ・産業革命と世界市場の形成	・産業革命の結果、資本主義が確立し、資本家と労働者が成長するとともに、貿易活動の拡大にともない世界の一体化が進んでいったことを把握させる。	絵画資料から革命の展開を読みとり、表現させる。
10月	産業化社会の拡大と成熟 ・ウィーン体制とその崩壊 ・国民国家への道	・ウィーン体制の動揺、崩壊と各国における自由主義とナショナリズムの展開について把握させる。 ・ヨーロッパやアメリカにおける資本主義の進展と国民国家形成の過程について理解する。	
11月	アジア・アフリカの植民地化 帝国と民族の時代 ・深まる国家と民族の対立 ・一体化する世界	・ヨーロッパ諸国における資本主義の発達、アジア・アフリカの植民地化に向かわせたことを理解する。 ・ヨーロッパにおこった国民国家形成の動きは、中央集権的な国家権力強化の方向に進んでいったことを理解させる。	諷刺画や写真資料を読みとり、文章で表現する。
12月	第一次世界大戦前後のヨーロッパ	・第一次世界大戦前夜の国際関係を通して、帝国主義政策をとる列強の利害対立を理解させる。	諷刺画や写真資料を読みとり、文章で表現する。
1月	二つの世界大戦の時代	・近代国家化を推進した欧米諸国及び日本の植民地拡大政策の結果、二つの世界大戦が起こったことをとらえる。列強諸国間の利害関係をおさえながら、戦争に至る過程を学ぶ。世界大戦の時代には、社会主義やファシズムなどの思想が生まれた。戦争は、これらの思想をめぐる対立でもあったことをとらえる。	諷刺画や写真資料を読みとり、文章で表現する。
2月	東西冷戦から多極的国際社会へ	・世界大戦後、世界は資本主義と社会主義のイデオロギーが対立する冷戦の時代へ移行したことを学ぶ。先進国が米ソのいずれかの陣営に入ることを選択した一方で、どちらの陣営にも入らないことを選んだ国々が第三世界として台頭したことをとらえる。	諷刺画や写真資料を読みとり、文章で表現する。
学習の留意点・評価など	写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。協働学習を取り入れ、各自が理解していることをアウトプットすることで、考えを広げ、深い理解へと導く。		

教科名	地理歴史科	科目名	地理 A	
対象学年	高校 2 年	コース・選択	コース I 必修	
単位数	2 単位	教科書 (出版社)	新地理 A (帝国書院)	
使用教材	新地理 A (帝国書院) 現代地図帳 (二宮書店)			
学習のねらい	世界各地域で見られる地形や気候などの環境には、それぞれ特色があり、その特色が人々の生活にどのように影響を与えているかを考えさせる。世界の国々の社会・文化・経済の特色を比較しながらとらえ、その共通点と相違点を分析させる。これらの学習を通して、世界の人々を共に歩むことができるグローバルシティズンとしての資質を育成する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4 月	地球上の位置と国家	<ul style="list-style-type: none"> 緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。 世界地図の図法を学ぶ。 国家の領域について理解する。 国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 緯度と生活の関係を考察する。 サマータイムの導入について、日本と海外について比較し、考察する。
	5 月	グローバル化が進む世界	<ul style="list-style-type: none"> 東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。 航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを理解する。 貿易の自由化が進められ、地域内の経済的結びつきを強める協定が拡大していることを理解する。 日本における観光の国際化について考察する 	陸上交通と海上交通の長所と短所を考察する。 日本の航空路線の変化を、図表から読み取り、その理由を考える。
	6 月	人々の生活と地形 人々の生活と気候	<ul style="list-style-type: none"> 河川、波や氷河がつくる地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する。 気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。 ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 各気候区の分布や特徴を理解し、それが人々の暮らしにどのような影響を与えているかを考える。 	各気候区の雨温図を読み取り、共通点と相違点を文章で表現する。 各気候区の暮らしの特徴を比較する。
	7 月	人々の生活と産業 人々の生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> 農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。 さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。 世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。 	三大宗教の特色の共通点と相違点を考える。

学期・月等	単元	学習内容	考える力	
学習内容と流れ	9月	中国の生活・文化 韓国の生活・文化 東南アジアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸部と沿海部、北部と南部の違いに注目して、中国の自然環境の地域差を考察する。 ・中国が多民族国家であることや、その民族の分布の特徴を捉える。 ・巨大な人口をもつ中国の人口問題とその解決への取り組みを理解する。 ・中国の現代の農業と工業の現状と課題について考える。 ・韓国の歴史、文化、産業の特色を理解する。 ・東南アジアの多様な民族と文化について理解する。 ・東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、東アジアの国々の共通点と相違点を考える。
	10月	インドの生活・文化 中央アジア・西アジア ・北アフリカの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教における対立があったことについて理解する。 ・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。 ・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。 ・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 ・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、日本との相違点と共通点を整理する。
	11月	サハラ以南のアフリカの生活・文化 ヨーロッパの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。 ・ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する。 ・地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。 ・ヨーロッパではどのような工業がさかんなのか、産業の発達の歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。 ・EUの歴史と現在の課題について考える。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、日本との相違点と共通点を整理する。
	12月	ロシアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの自然環境と人々の暮らしの特徴を考える。 ・ロシア革命、冷戦、冷戦終結という時代の流れの中で、政治体制や経済がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題を考える。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、日本との相違点と共通点を整理する。

	学期・月等	単元	学習内容	考える力
学習内容と流れ	1月	アメリカ合衆国の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。 ・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、日本との相違点と共通点を整理する。
	2月	ラテン・アメリカの生活・文化 オーストラリアの生活・文化 地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。 ・先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合した、ラテンアメリカの独特な文化について理解する。 ・オーストラリアの多文化社会はどのように形成されてきたのか、移民の出身国の変化をもとに理解する。 ・オーストラリアとアジア太平洋との結びつきが強まったことを、貿易や経済機構を通して理解する。 ・自然環境に適した農業が行われていることを理解する。 ・鉱産資源やエネルギー資源の豊富なオーストラリアの鉱工業について理解する。 ・地球的課題として、環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について学び、考える。 	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。思考ツールを利用して、日本との相違点と共通点を整理する。
学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。			

教科名	地理歴史科	科目名	日本史A	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースII	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	日本史A (山川出版)	
使用教材	日本史Aノート (山川出版) 新詳日本史図説			
学習のねらい	幕末・明治維新から現代までの学習で近代日本の流れを理解し、また日本の近代化を支えた人々について学習し、その役割を理解する。なお、留意点としては、受験科目である日本史Bとのつながりを意識し、受験生への配慮を要する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4月	序章 近世社会の動揺と政治改革 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. 新しい経済構造と学問の芽生え 3. 日本をとりまく世界の変容	幕府の政治体制がどのように揺らいでいったかを理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	5月	第1章 開国と明治維新 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. アジアの激動と日本の開国 3. 明治維新 4. 富国強兵 5. 明治初期の外交 6. 殖産興業と文明開化	時代背景として世界情勢を把握しながら、その中で日本がどのような政策をとっていったか、近代化の過程をしっかりと把握する。	
	6月	第2章 立憲国家の成立 1. 自由民権運動 2. 立憲制の成立 3. 立憲政治の展開 4. 日清・日露戦争 5. 産業革命と社会の変容 6. 明治の文化	明治期における立憲政治の成立過程と外交をしっかりと理解する。	
	7月	第3章 第一次世界大戦と日本 1. 政党政治の展開 2. ワシントン会議	第一次世界大戦と日本の関係をしっかりと理解する。	

	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
学 習 内 容 と 流 れ	9月	3. 経済・社会の変容 4. 市民文化	何故大正時代にデモクラシーの風潮が起こったかを理解する。	
	10月	第4章 昭和の恐慌と満州事変 1. 昭和の恐慌 2. 政党内閣期の内政と外交 3. 軍部の台頭	日中戦争にいたる過程をしっかりと理解する。	
	11月	第5章 第二次世界大戦と日本 1. 日中戦争 2. 重化学工業と統制経済	太平洋戦争への過程を理解する。	
	12月	3. 第二次世界大戦と太平洋戦争	太平洋戦争が日本国民の生活をどう変えたかを理解する。	
	1月	第6章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と調和	世界情勢と占領政策がどう関連しているかを理解する。	
	2月	第7章 経済繁栄と保守長期政権 1. 55年体制 2. 高度成長期の経済と社会 第8章 現代の世界と日本	何故日本は戦後復興に成功したかを理解する。	
	学習の 留意点・ 評価など	<p>世界の中の日本を意識しながら、日本の近現代史を学ぶ。 流れを自ら考えるように指導し、常に疑問点を考え、それを自分で考える能力を養う。 評価は試験とレポートなどで行う。</p>		

教科名	地理歴史科	科目名	地理 A	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースⅢ	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	新地理A (帝国書院)、 現代地図帳 (二宮書店)	
使用教材	新地理Aノート (帝国書院)、5万分の1地形図			
学習のねらい	<p>私たちが生活する地球世界は、多種多様な暮らし方をしていいる。その基礎は生命を育む地球の自然環境である。様々な顔を見せる自然環境の条件の基に、我々人類も暮らし社会を発展させていいる。自然環境の構造や現象等の理解を深めながら、自然環境を土台にした各地域の社会環境の成立、その二つの環境が融合調和し、発展していく地理的環境を認識させたい。その地理的考察力を養うことで、世界の諸問題、課題に関心を強めさせ、解決させるにはどうすればよいか等を考えさせたい。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1章 地球儀や地図がとらえる現代社会 1節 地球上の位置と国家	現代社会・世界史等の既習された世界の諸問題等の復習を兼ね、まずは世界的認識をせらう。 他教科で既習された地域・技能も反映されていることも認識せらう。	1節の③球面と平面の世界の後に、第2部1章を行なう。 その後、第1部1章に戻る。
5月	第2部 身近な地域の課題 1章 身近にあるさまざまな地図 第1部 2節 グローバル化が進む世界	修学旅行に合わせて地域観察・地域分析の技能を高める機会にしていく。		
6月	2章 人間生活を取り巻く環境 1節 生活に影響を与える環境条件とは 2節 人々の生活と地形		7月 第2部 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査 3節 人々の生活と気候 9月 4節 人々の生活と産業 5節 人々の生活と文化	10月 4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題
7月				
9月				
10月				

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点		
学 習 内 容 と 流 れ		3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題	単なる知識として学習するのではなく、個々の生活と関わることを意識させる。			
	11月	第3章 世界の諸地域の生活文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 インドの生活・文化	諸地域、各国の特色を把握させながら、発展と課題を考えさせる。			
	12月	5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化				
	1月	6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化				
		7節 ヨーロッパの生活・文化				
		8節 ロシアの生活・文化				
	2月	9節 アメリカ合衆国の生活・文化				
		10節 ラテンアメリカの生活・文化				
	3月	11節 オーストラリアの生活・文化				
	学習の留意点・評価など	対象となっている地域の諸現象、地域構造のしくみや地域分析しての地域の共通性・特殊性の背景を十分に認識できたか等を見たい。				
	備 考					

教科名	地歴歴史科	科目名	日本史B	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースⅡ（教科選択内選択）	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B（山川出版社）	
使用教材	詳説日本史B（山川出版社） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）			
学習のねらい	<p>原始・古代～中世までにおける日本の歴史について、通史（政治史・外交史を中心に）の理解を深める。中学までに学習した日本史の基礎知識を掘り起こし、かつ中等教育では触れることのなかった詳細を正確に認識させる。その上で、大学受験のために必要な基礎知識を定着させ、高3でのさらなる時代の理解につなげられるよう、高2では学習の方法にも意識した授業展開を心がけたい。原始（先土器）から中世（室町・戦国時代）までを履修目標とする。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	先土器・縄文	原始の遺跡・遺物を時代ごとに把握	各時代の流れをしっかりと理解させた上で、知識の習得をさせる。各時代の為政者を中心に、政治史を扱う。
	5月 (中間)	弥生・古墳・飛鳥の朝廷	文献史料の購読	
	6月	大化の改新～律令国家の形成 奈良時代：律令制の動揺	天皇と政策の展開 藤原氏の政権掌握	
	7月 (期末)	平安初期：律令再建	桓武天皇中心の時代	
	2学期 9月	摂関政治	藤原氏の他氏排斥	
	10月 (中間)	荘園制の発展	律令制と荘園制の相違を理解	
	11月	地方武士の台頭	平氏政権～源氏の台頭	
	12月 (期末)	鎌倉時代	北条氏の執権政治	
	3学期 1月	鎌倉時代後期	元寇・幕末	
2月	室町時代	建武の親政・南北朝時代 戦国時代		
3月	(学年末考査)			
学習の留意点・評価など	<p>単なる語句の暗記にならないよう、時代の理解を重視する。基礎知識を、大学受験としての定着もふまえて意識・理解させる。各自で演習を行っていけるよう、学習の方向性を示唆する。</p>			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史B	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースII	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説世界史B(山川出版)	
使用教材	詳説世界史Bノート(山川出版) タペストリー世界史(帝国書院)			
学習のねらい	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	序章 先史の世界 第1章 オリентと地中海世界	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気づくと同時に、人類と言語の分化を理解する。西アジア世界の風土、オリент文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。地中海世界の風土、を理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	5月	第2章 アジア・アメリカの古代文明	南アジア・東南アジアの風土と諸民族、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、両世界の形成過程を理解する。東アジアの風土、中国文明の起源と殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。先住民によるアメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	6月	第3章 東アジア世界の形成と発展	東アジアにおける北方民族の動向と、魏晉南北朝という中国における分裂と動乱の時代を理解する。隋唐帝国の国家制度と、隣接する東アジア文化圏諸国の動向を理解する。契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
	7月	第5章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム成立の背景とその特質を理解する。アラブ人によるイスラーム帝国の発展、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	

	学期・月等	単 元	ねらい	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	9月	第5章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	コンセプトマップなどを利用して、事項の関連づけを考える。またそのマップを他者に説明することによって、表現する力を養う。
		第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展	地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成され、変動していった過程と、両世界それぞれの独自の性格を理解する。十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。教会建築、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	
	10月	第7章 諸地域世界の交流	ユーラシアの陸と海のネットワークを背景に諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを理解する。	
		第8章 アジア諸地域の繁栄	16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解する。トルコ・イランからインドに誕生したイスラーム帝国の動向を理解する。	
	11月	第9章 近代ヨーロッパの成立	大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といったヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解する。主権国家体制の特色と、それを形成したヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	
		第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開	17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色を理解する。	
	12月			
	1月			
	2月			
	学習の留意点・評価など	まず通史を、あまり細かい事項にとらわれることなく、流れを中心に学ぶ事を心掛ける。授業で学んだ事を、お互いに発表し合うことによって、各々の理解度を確認する。		
備 考				

教科名	地理歴史科	科目名	歴史と地理	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースI（2選1）	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	——	
使用教材	プリント・新聞・地図・視聴覚教材など			
学習のねらい	<p>○歴史分野と△地理分野の2人の教師がオムニバス方式で担当し、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。</p> <p>○世界や日本の歴史の流れに大きな影響を与えた人物、特に女性に注目し、その時代背景・女性観・文化などを考察する。</p> <p>△自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見出し、考える。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	○世界史の中の女性（近現代） △東・南アジアの自然の文化 △沖縄から見えてくること	○世界・日本の人物、特に女性を取り上げ、その時代での生き方、社会・文化などを考えさせる	修学旅行前に学習
	6月	△チベットから見えてくること △フィリピンから見えてくること	△世界の州単位ごとの地域に区切ることで、その地域で固有の問題・特色がクローズアップでき、より今の日本の地域社会との違い共通性を浮かび上がらせることによって、考えさせる。	
	10月	○世界史の中の女性（近現代） △長崎と世界 △負の遺産を持つ日本		
	11月	△西アジアの自然・文化 △ヨーロッパの自然・文化		
	12月	○日本史の中の女性（近現代） △固有のクリスマス文化を持つ地域		
	1月	○日本史の中の女性（近現代） △固有のクリスマス文化を持つ地域		
	2月	△オセアニアの自然・文化		
学習の留意点・評価など	評価は学期末試験（年3回）・レポート・平常点による。			

教科名	地理歴史科		科目名	World Studies
対象学年	高校2年		コース・選択	コースⅠⅡ（選択）
単位数	2単位		教科書 (出版社)	なし
使用教材	各種ワークシート / 視聴覚教材 / ワークショップ教材			
学習のねらい	<p>探究する基本的な問い 「ある国の文化の形成に、異民族の文化がどのような影響を与えているのか？」 「ある国の文化の形成には、どのような歴史的背景があるのか？」 「英語はどのように形成されたのか、その形成にはどのような歴史的背景があるのか？」</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ローカルからグローバルに及ぶ各レベルのコミュニティーの一員として多様性を肯定的にとらえ、よりよいコミュニティーの形成に貢献できる人材を育成する。 あるコミュニティーの文化は、民族が接触を繰り返すことによって形成されてきたことに気づかせる。 英語をツールとして使う態度を養うと同時に、英語を単なるツールではなく多様な人々が共存する中で歴史的に形成される文化であるという意識を持たせる。 簡単な英語でも人に伝えることができることを体験させ、人前で英語を話すことへの抵抗感をなくす。 プレゼンテーションを身近なものとし、探究したことを他者と共有する積極的な態度を養う。 			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	英語活動
	1学期 4月	オリエンテーション 世界地理	1年間の授業内容、受講にあたって守るべきルールを説明する。 ゲームを通して、世界地図に親しむ。	
		世界地理	東アジア、東南アジア等の地域区分を学ぶ。 共和国や連邦国家などの意味を理解する。	英語の地域名を学ぶ。西ヨーロッパの国名と首都名を英語で学ぶ。 20種類の英語国名カードを分類する。
		ゲストスピーカー	金城学院大学英語英米文化学科の先生による講義： 英語力の向上には、国際社会についての知識が不可欠であることを学ぶ。	
	5月	世界地理	風景写真を見ながら、主な地形と地名を学ぶ。各国の写真と説明文のカードを合わせる。 写真と説明文のワークシートで、各国の特色を学ぶ。	英文の説明文を、これまでに学習した地理用語を活用し読み取る。
			世界地理クイズをつくる。	英語でクイズを作る際に必要な表現を学び、クイズをつくる。
			写真の国や地域を根拠を添えて推測する。	根拠を添えて伝える英語表現を学ぶ。
	6月 7月	世界の多様なくらし	各写真から読み取れる情報を整理する。	写真の地域や国を推測し、根拠を添えて英語で発表する。
				Paragraph Writing : First step : 好きな国 / 興味のある国を1つ選び、なぜ好きなのか理由を添えて説明する英文を書き、発表する。

学期・月等	単元	学習内容	英語活動
	SDGs	Sustainable Development Goals が設定された背景やその内容を学ぶ。	17の目標を英語で読み取る。グループで、話し合って特に重要だと考える目標をいくつか選び、順位付けをする。なぜ、その順位づけになったのかを英語で説明する。
2学期 9月	多民族社会 英国	イーストロンドンの移民社会の写真から、イギリスが典型的な多文化社会であることに気づく。 What is UK? イギリスの概要を把握する。 人口、首都、通貨、首相、地形等	人口、首都、通貨、首相等の英単語を学ぶ。
10月	英国の食文化の多様性と歴史的背景	代表的なイギリス料理を知る。イギリスの食文化として知られる紅茶／アフタヌーンティーから、国際社会が歴史的にどのようにつながり、影響し合ってきたかを考える。 ・いつからイギリス人は紅茶を飲むようになったのか？ ・英国と紅茶が結びつくのは、どのような時代背景なのか？ ・植民地にどのような影響を与えたのか？	英文レシピを読むとる。 紅茶のパッケージにある会社の創設に関する説明文を読み取る。 英国の紅茶の歴史に関する英文を読み取る。 紅茶の歴史に関わった人物になりきって、何をしたのか、自分の果たした役割についてどう思っているのかなどを英語で表現する。
11月	多民族社会 英国の民族	英国には古代から様々な民族が流入し、その社会が形成されてきたことを確認する。特に旧植民地からの移民の流入に注目する。	英文資料を読み取る。
12月	ゲストスピーカー	関西学院大学学生から、海外ボランティア等の経験談を聞く。	事前学習として、学生の派遣国に関する英文資料を読み取る。
3学期 1月		英語がフランス語を取り入れるに至った歴史的背景を考える。年表、地図、系図資料を読み取り、ノルマン朝が征服王朝であることを理解する。	英語の年表を読み取る。
2月	英語の多様性と歴史的背景	紋章の変遷から、英仏関係史を学ぶ。	征服者ノルマン人と先住農民の台詞を考え、演じる。
		英語に見られるフランス語以外の要素について学ぶなかで、イギリスへの諸民族の流入と中世までの英国史を概観する。	英文教材を使って英語の中の他言語について学ぶ。
	異文化交流プロジェクト	「多文化共生」をトピックとして金城学院大学留学生とワークショップを行う。	
学習の留意点・評価など	授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。		

教科名	地理歴史科	科目名	日本史A	
対象学年	高校3年	コース・選択	必修	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	日本史A (第一学習社)	
使用教材	日本史A (第一学習社)			
学習のねらい	日本が国際社会の中で、どのようにして近代国家を建設し、戦争の悲劇を乗り越え平和国家を築いてきたかを、諸資料に基づき考察する。考察を通して、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
	4月	第2節 明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸が東京になった	<ul style="list-style-type: none"> ・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。 ・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・幕末から明治初期の使節・留学生の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。 	開国に至る要因と開国の影響をコンセプトマップで表現する。
	5月	第3節 近代国家の確立 ①天皇の軍隊がつくられた ②スローガンは「富国強兵」 ③欧米文化がはいってきた ④日本の国境が定まった ⑤爆発する農民や士族の不満	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の強硬な近代化政策に、農民や士族が抵抗を示したことを理解する。 	風刺画を読み取る。
	6月	⑥国会開設が決まった ⑦地主制が進行した ⑧立憲政治がはじまった ⑨国会がはじめて開かれた 第4節 対外関係の変化 ①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③ロシアとの戦争がおこった ④アジアへの侵略がはじまる	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。 ・初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正、一方、アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。 ・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し、進められたことを理解する。 ・日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。 	風刺画を読み取る。
	7月	第5節 政党政治の展開 ①藩閥と政党が接近した ②民衆が政治を動かしはじめた ③「平民宰相」が登場した	<ul style="list-style-type: none"> ・明治後半から大正期において、国内的に政党政治が展開したことを理解する。 	

学期・月等	単元	学習内容	留意点
9月	第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 ①日本の生糸が世界を制する ②欧米の資本主義に仲間入りした ③貧富の差が広がった ④抑圧からの解放をもとめて	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。 ・社会運動の広がりとともに、大正期には女性解放運動が展開したことを理解する。 	世界史で学習した帝国主義の枠組みの中でとらえる。
10月	第2節 国民生活の変化と文化 ①明治の国家主義と大正のデモクラシー ②教育が進化した ③多彩な学問と近代文学が発展した ④新しい文化とモダンな都市が生まれた	<ul style="list-style-type: none"> ・国家主義思想や大正デモクラシーの風潮に着目して、明治期と大正期の思想の違いについて理解する。 ・国民統制において、教育政策や国家主義的思想が果たした役割について理解する。 ・明治～昭和初期の文化的業績について理解する。 ・明治～昭和初期の文化の背景としての都市生活の発展について理解する。 	
11月	第3節 第一次世界大戦と日本 ①最初の世界大戦に日本も参戦した ②朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ③日本は欧米に歩調をあわせた ④成金の時代がやってきた	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ・第一次世界大戦後、国際的に民族運動が高まったことについて理解する。 ・第一次世界大戦が日本に与えた経済的な影響について理解する。 	なぜ日本は二つの世界大戦に参加したのかを考える。
12月	第4節 第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった	<ul style="list-style-type: none"> ・国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と、国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し、日本および各国が、このような状況をどのように克服していったのかを理解する。 ・軍部の台頭の過程と、これにともなう政治的な状況の変化について理解する。 	
1月	④中国との長い戦いがはじまった ⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。 ・太平洋戦争に至る過程のなかで、国民生活はどのように変化したのかを理解する。 ・日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。 	
学習の留意点・評価など	写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。非連続型テキストは、プロジェクターを利用し、スクリーンに投影することで観察しやすくする。		

教科名	地理歴史科	科目名	日本史B	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ（社会科内選択）	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B（山川出版社）	
使用教材	各種プリント / 詳説日本史B（山川出版） / 新詳日本史（浜島書店） / 日本史用語集（山川出版）			
学習のねらい	近世から現代にかけての日本史の流れを大きく理解する。特に、近現代史では日本と世界の関係を学ぶことによって、現代起こっている諸問題を理解するための能力を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	織豊政権と江戸幕府の成立 (中期まで)	昨年度学習した戦国時代までの歴史を思い出させ、文治政治までの内容を把握させる。	武家政権の内容及び鎖国に至る経緯を世界との関わりを考慮しながら理解させる。
	5月 6月 7月	江戸時代後期①	改革期の内容を把握させる。	成熟した政権の問題点に留意する。
	2学期 9月	江戸時代後期②	列強の接近と幕府の対応を把握させる。	世界の動きと日本周辺の状況にも留意する。
	10月 11月	戦後昭和史～平成不況まで	アメリカ占領下の日本及び民主改革、55年体制から平成不況までの流れを把握させる。	戦後改革が現在の日本にどのような影響を与えているかも留意する。
12月	センター試験演習	センター試験対策	過去問を解き、センター試験前の総仕上げをする。	
学習の留意点・評価など	通史としての日本の歴史と、それにもなう歴史的な洞察力を身につけ、社会全体の在り方を考える。その際、単なる用語の暗記に終始しないよう、各時代の流れを正しく理解することを意識し、それぞれの出来事が発生した時代背景や他のできごととの因果関係にも着目させる。また、時代劇や歴史小説・漫画など、生徒が日本史に興味をもてるようなものについても、随時紹介していきたい。			
備考	受験生としての学習への取り組みを、個々の生徒が持てるように普段からの授業には気を配りたい。			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史 B	
対象学年	高校 3 年	コース・選択	コース II (教科内選択)	
単位数	2 単位	教科書 (出版社)	詳説世界史 B (山川出版社)	
使用教材	最新世界史図説タペストリー (帝国書院)			
学習の ねらい	<p>グローバル化が進む現代社会において、近代以降の歴史が大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。</p> <p>また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。</p>			
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	近世・近代ヨーロッパ世界 の形成・発展 近代国民国家の発展	ヨーロッパにおける近世の国家、そして、環大西洋革命を経て、近代の国民国家がどのように成立したかを考える。国民国家というのが自明なものではなく、「創られるもの」という視点に立ち理解する。	教科書において、なぜこの時代から「国家の歴史」が全面にでてきているのかを考える。
	5 月	アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族 運動	ヨーロッパの進出により、アジア地域での政治の変化、植民地化に伴う民族主義の芽生えを理解する。また、アジアのナショナリズムの高まりが、ヨーロッパとは異なる展開をみせることを理解する。 列強による帝国主義の中で、植民地獲得が経済的にどのような意味があるのか、また植民地化を可能にしたヨーロッパの思想の背景には何があるのかを理解する。	現在、問題になっている中東の問題、またグローバルな視点から自由貿易協定などの問題と政治的、経済的に関連付けて理解する。
	6 月 7 月	二つの世界大戦	帝国主義の覇権争い、バルカン半島における民族問題からはじまった第一次世界大戦、世界恐慌に対応するためのブロック経済という経済戦略から起こった第二次世界大戦を学習する。二つの戦争と戦間期における歴史を学習することで、政治、経済、民族、国家というワードが複雑に絡み合いながら戦争に至った理由を探る。また、一次大戦後、ウィルソンが提唱した民族自決の権利が二次世界大戦にもたらした影響や、二次大戦後の国際連合の枠組みなど現在に繋がる論理を理解する。	様々な映像資料、当時の資料、戦後書かれた文字資料を参考にする。

	学期・月等	単元	ねらい	留意点
学習内容と流れ	2学期 9月 10月 11月	冷戦と第三世界の自立	戦後、国際社会の中心となったアメリカとソ連の冷戦、アジア・アフリカの自立について学習する。東西陣営を支えた経済的論理と軍備拡大や、一方でアジア・アフリカの自立を促す様々な運動を理解する。 また、いわゆる9.11以降、様々な意味で注目される中東地域であるイスラエルとアラブ諸国の軋轢の歴史的背景やそこに絡む石油などの経済的理由から現代の問題についても考える。	
	12月	現代の世界	ソ連解体、東欧社会主義圏の民主化運動から国家の誕生、一方でヨーロッパ連合の登場による新しい共同体の成立を学習する。アフリカにおいては、独立後むしろ活発化した紛争の背景を理解する。現代社会に直結する問題を歴史的な意義を踏まえて理解する。	現在の私たちが歩んでいる歴史と、「世界史」を考える。
学習の留意点・評価など	近代以降のヨーロッパ中心の歴史観を相対化する視点を養うことを目的とする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。			
備考				

教科名	地理歴史科	科目名	歴史と地理	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースI (A選1)	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	——	
使用教材	プリント・新聞・地図・視聴覚教材			
学習のねらい	<p>○歴史分野と△地理分野の2人の教師がオムニバス方式で担当し、2学年次から継続して、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。</p> <p>○世界や日本の歴史の流れに大きな影響を与えた人物、特に女性に注目し、その時代背景・女性観・文化などを考察する。</p> <p>△自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見出し、考える。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月 5月	<p>○世界史の中の女性（近現代）</p> <p>△アングロ・アメリカの自然・文化</p> <p>△ラテン・アメリカの自然と文化</p> <p>△コスタリカの平和憲法</p> <p>△ブラジル混血社会・文化</p>	<p>○世界・日本の人物、特に女性を取り上げ、その時代での生き方、社会・文化などを考えさせる</p> <p>△世界の州単位ごとの地域に区切ることで、その地域で固有の問題・特色がクローズアップでき、より今の日本の地域社会との違い共通性を浮かび上がらすことにより、考えさせたい。</p>	<p>コスタリカとブラジルを特に取り上げる。</p>
6月 7月	<p>○世界史の中の女性（近現代）</p> <p>○日本史の中の女性（近現代）</p> <p>△アフリカの自然・文化</p> <p>△虹の国・社会</p> <p>○日本史の中の女性（近現代）</p> <p>△日本国内の国際化</p>		<p>南アフリカ共和国を特に取り上げる。</p> <p>在日外国人、特に日系人を取り上げる。</p>	
備考	評価は中間試験・1学期期末試験（年2回）・レポート・平常点による。			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史演習	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ (B3)	
単位数	3単位	教科書 (出版社)	詳説世界史B (山川出版社)	
使用教材	最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 実力をつける世界史100題 (Z会出版) 必要に応じてその他の問題集			
学習のねらい	本講では、大学入学センター試験、および国公立大学2次試験、私立大学一般入学試験を視野に入れ、古代から現代までの通史、地域史、テーマ・文化史など、主に問題演習を通して、様々な角度から「世界史」を学ぶ。また「世界史B」の授業で学んだことを問題として復習することで、知識を定着させる。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	古代世界	オリエントから、ギリシア・ローマの歴史を学ぶ。	まずは直近の「世界史B」の授業で学んだ箇所の問題を解いて復習する。さらに問題演習を行いながら、基本的には通史を復習し、さらにテーマや地域の関係の歴史を学ぶことで、様々な歴史的知識をつなぎ合わせる。
	5月	東アジア・中央アジア史	中国史、北方民族の歴史を学ぶ。中国で発生した各王朝からみた北方民族、北方民族からみた中国史という双方からこの地域の歴史を捉える。	
	6月	西アジア・東南アジア・南アジア史	イスラーム世界の拡大、インドを中心とした南アジア、東南アジア諸国と地域のネットワークに関して学ぶ。	
	7月	ヨーロッパ史	中世～近世ヨーロッパの各地域、各国の歴史について学ぶ。	
	2学期 9月	近代ヨーロッパ史	主権国家、市民革命、帝国主義のヨーロッパを学ぶ。	
	10月	アジア・アフリカの変容	帝国主義時代のアジア・アフリカ地域の変容について学ぶ。	
	11月	二つの世界大戦、冷戦後の世界	世界大戦と冷戦後の世界を学ぶ。	
	12月	問題演習	センター試験、私立大学一般入試試験を踏まえ、世界史全般について、問題演習を行う。	
学習の留意点・評価など	通史的な理解力だけでなく、諸地域の「関係」に着目することで、その「関係の歴史」から異なる地域、国の歴史を理解する。問題演習を主に行うが、問題作成者の意図や、背景にまで踏み込める問題を解くことで、「世界史」への受験を通したまなざしにも注目する。			
備考				

教科名	地理歴史科	科目名	日本史演習		
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ (B3)		
単位数	3単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B (山川出版社)		
使用教材	詳説日本史B (山川出版社)、重要問題演習日本史B (数研出版)				
学習の ねらい	受験対象者として、日本史の問題を演習し、基礎力から応用力までの実践力を養う。				
学習 内容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点	
	1学期 4月	原始時代の演習	基礎的な問題と応用問題を交互に扱い、難易度を意識させた取り組みを行う。	入試本番までの1年の流れを説明し、計画的な計画スタイルの確立を意識づける。	
	5月	古代史の演習			
	6月 (期末)	中世史の演習 (1)			
	7月	中世史の演習 (2)			受験生の心得、マークシート記入の注意点、記述・論述問題の対策等にも言及。
	2学期				史料や図説の活用
	9月	近世史の演習			
	10月	近代史の演習 (1)			
	11月 (期末)	近代史の演習 (2)			基礎力の徹底に専念し、実力への不安を考慮する。
	12月	現代史の演習			
学習の 留意点・ 評価など	<p>問題集の演習だけにとらわれず、史料や図説の活用法や、解答・解説から導き出される歴史的事実と考察力の育成にも重点を置く。</p> <p>2学期からは、志望校と自己の実力の観点から、不安を持つ生徒も現れる。基礎の徹底を促し、かつ授業内においては、日本史を受験しない生徒の弛緩した空気を充満させないよう、特に留意する。</p> <p>12月からは、生徒の受験へのプレッシャーや緊張感も考慮して、質問や相談にも対応する。</p>				
備 考	受験生としての学習への心構えや取り組みを、個々の生徒が持てるように、普段からの授業には気を配りたい。				

教科名	地理歴史科	科目名	地理演習	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅢ (C2)	
単位数	2単位	教科書(出版社)	——	
使用教材	サクシード地理(啓隆社) 新詳地理資料(帝国書院) センター試験への道 地理(山川出版)			
学習のねらい	受験者を対象とし、地理問題を演習して実力を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	・系統地理分野の演習	要点整理と想定問題の演習を通して基礎力向上を目指す。	地図分析、統計数値分析、表グラフ化しての分析等の客観力向上につながる発問をする。また、それに対する論理的な説明ができる応答力を身につけさせたい。
	6月	・系統地理分野の演習		
	7月	・地誌分野の演習		
	9月	・世界の課題の演習		
	10月	・地図の演習		
	11月 ～ 12月	・問題演習		
学習の留意点・評価など	対象となっている地域の諸現象、地域構造の仕組みや地域分析の共通性・特殊性の背景を十分に認識できたかを見たい。			
備考				

教科名	地理歴史科		科目名	World Studies
対象学年	高校3年		コース・選択	コースⅠⅡ（選択）
単位数	2単位		教科書 (出版社)	なし
使用教材	各種ワークシート／視聴覚教材／ワークショップ教材			
学習のねらい	1学期	<p>基本的な問い アメリカ合衆国は、多文化共生を実現するためにどのような歴史をたどってきたのか。そして、現在、どのような課題があるのか。</p> <p>学習目標 移民の国のアメリカ合衆国のあゆみを知ること、多文化社会の利点を課題について考える。どうすれば多文化共生社会が実現するかを考える。 英語で自分の考えや意見を伝えることができる。</p>		
	2学期以降	<p>大学入試問題の英文を通して、様々なテーマに関連する語彙を習得し、4技能を向上させる。精読というよりは、英文全体のテーマを掴み、著者の立場、意見について把握する。また、自分の意見を仲間と共有し、表現力を養う。</p>		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	英語活動
	1学期 4月	多文化社会 アメリカ合衆国 地理	北アメリカの地理的基礎知識を習得する。 アメリカ合衆国の政治組織を学ぶ。	英文資料を使って、アメリカ合衆国の政治組織について学ぶ。
		多文化社会 アメリカ合衆国 地理		Explore San Diego サンディエゴの歴史・文化・産業を英語で学ぶ。 サンディエゴの魅力を英語で発表する。 サンディエゴ出身のネイティブの先生にサンディエゴを紹介してもらい、質疑応答をする。
	5月	多文化社会 アメリカ合衆国 建国と移民の歴史	植民地時代から独立までの主な歴史事項をおさえる。 ヨーロッパ系移民の流入の歴史に関する要点をおさえる。 ネイティブアメリカンの歴史について学ぶ。	ピクチャーカードと英語の説明文を組み合わせる。 歴史的スピーチの一部分を英語で読む。 Manifest Destiny に関する英文を読む。
	6月	多文化社会 アメリカ合衆国 公民権運動	大西洋三角貿易と奴隷解放までの歴史を学ぶ。 「分離すれども平等」の原則が確立されたことを知る。 ローザ・パークス事件から公民権法成立までの主な出来事を学ぶ。 アファーマティブアクションについて学ぶ。	Little Rock 事件の写真を読み取り、英語でキャプションや台詞を考える。 Role Play “Eye witness” を行う。
7月	多文化社会 アメリカ合衆国		英語劇を行う。移民の物語を英語で演じる。	

	学期・月等	単元	学習内容
学習内容と流れ		金城学院大学に内部推薦で進学する生徒は、金城学院大学の講義に参加（2学期、3学期）	
	2学期 9月	歴史、文化に関する例文に触れる	歴史に関する入試問題を読み、英単語の意味、発音の確認をする。長文の主旨を読み取る。英文の内容について英語で確認をする。テーマに関する自分の意見を仲間と共有する。自分の意見を英文で表現する練習をする。
	10月	社会に関する例文に触れる	社会問題についての英文を読み、理解を深める。日本の社会が抱えている問題を自ら選び、その問題を改善するためにどのようにしたらよいのか意見を共有し、意見をまとめ発表する。
	11月	科学に関する例文に触れる	科学技術についての英文を読み、知識を深める。宇宙開発について、賛成、反対の立場を明らかにして、意見をまとめる。
	12月	総合演習	実戦問題に挑戦する。
学習の留意点・評価など	授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。社会や文化の多様性に気づかせ、違いから学ぶことを心掛ける。		

教科名	公 民 科		科 目 名	現代社会
対象学年	高校1年		コース・選択	必 修
単位数	2単位		教科書 (出版社)	現代社会 (東京書籍)
使用教材	・ズームアップ現代社会資料 (実教出版)			
学習のねらい	現代社会のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断するとともに、他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付ける。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	留 意 点
	4月	1 現代社会と青年の生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の発達課題 ・自己形成と社会とのかわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の心理的、社会的な特色を理解すると同時に、現代社会に特有の青年の在り方について考える。また、アイデンティティ確立に向けた課題について考察する。 ・欲求と適応行動の関係について理解し、青年期におけるパーソナリティの形成やボランティアなどの社会との関わりの意義について考察する。
		2 よりよく生きることを求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学と宗教 ・近代科学の考え方 ・人間の尊厳 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく生きることを追求したソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想、心の持ち方やよりよい生き方を求めた儒家や道家などの思想を理解する。また、仏教、キリスト教、イスラム教の三大宗教の教えについて理解する。 ・ルネサンス以降の思想やベーコン、デカルトのものの考え方を学習することによって、近代の人間中心主義、合理的なものの考え方を理解する。 ・人間の尊厳について説いたカントや理性の具体化を主張したヘーゲル、幸福と正義の関わりを考えたアダム・スミス、ベンサム、J.S. ミルの思想について理解する。
	5月		<ul style="list-style-type: none"> ・人間性の回復を求めて ・日本の伝統思想の考え方 ・外来思想の受容と日本人の自覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の合理主義を批判し、社会の仕組みの改革を主張したマルクスの社会主義、人間の主体性の回復を求めた実存主義、その他主な現代思想の特色について理解する。 ・「おのずから」でとらえる日本人のものの考え方、八百万の神に示される神のとらえ方、清き明き心などの日本人の倫理観、日本の仏教の形成について理解する。 ・江戸期における儒教や国学の考え方の特色を学ぶとともに、明治以降に西洋思想をどのように受容したのか、またその中から生まれた思想について理解する。
1 国際政治のしくみと動向		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の特質 ・国際紛争を避けるしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の三要素、主権国家の成立、国家間の諸問題と外交、国際法の意義と国際法の種類などについて理解する。 ・国際紛争を避ける仕組みとしての勢力均衡、集団安全保障、国際連盟の特色、国際連合の設立と仕組みについて理解する。 	

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	留 意 点
	6 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際連合の現状と課題 ・ 冷戦とその後の世界 ・ 軍縮への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連の安全保障への取り組みの現状と課題、平和維持活動の役割、国連の経済的・社会的役割について理解し、国際連合の課題について考察する。 ・ 第二次世界大戦後の東西の対立、1960年代の緊張緩和、多極化の動き、その後の冷戦の終結、冷戦終結後の紛争と対立などについて理解する。 ・ 米ソの軍備拡張競争と反核運動、国連の軍縮に向けた取り組みと成果について理解し、軍縮に伴う課題、信頼を育てることの重要性について考察する。
		2 国際経済のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貿易と国際分業 ・ 外国為替のしくみと国際収支 ・ 戦後国際経済の枠組みとその変化 ・ 対立と協調の時代 ・ グローバル化する経済 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貿易の意義、自由貿易と保護貿易、リカードやリストの考え方、企業の展開と国際分業の実態について理解する。 ・ 取引引きの決済方法としての外国為替の仕組み、為替レートの変動要因と影響、国際収支の仕組みと黒字や赤字の意味について理解する。 ・ IMF - G A T T体制成立の背景やその仕組み、貿易ルールにかかわるG A T Tの枠組み、IMF - G A T T体制の危機と崩壊について理解する。 ・ 1970年代の国際経済の枠組み立て直し、ウルグアイ・ラウンドとW T Oの成立、国や地域間の貿易や経済の連携や協定について理解する。 ・ グローバル化の時代の特色、金融の動きのグローバルな展開について理解し、世界経済の安定化に向けた課題について考察する。
		7 月	3 国際社会の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域統合の進展 ・ 変容する世界経済 ・ 国際的な格差の是正 ・ 地域紛争と難民問題 ・ 国境をこえて広がる地球規模の課題 ・ 日本の役割
	9 月	1 経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済社会の変容 ・ 現代の企業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業革命などを契機に資本主義経済が成立したこと、アダム・スミスの考え、資本主義経済の変容と社会主義やケインズの理論、資本主義の現在について理解する。 ・ 企業の役割、企業の活動、株式会社の特色、国際化に伴う変化、企業の社会的責任について理解する。

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	留 意 点
	10月		<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済のしくみ ・国民所得と経済成長 ・金融のしくみと働き 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の仕組み、寡占市場における価格の形成、独占禁止政策について理解する。また、価格機構が十分に働かない市場の失敗について考察する。 ・国の経済の指標である GDP や国富などについて理解し、経済成長の意味や景気の変動について学習する。 ・金融システムの仕組み、資金を融通する方法としての直接金融、間接金融、通貨制度、信用創造について理解する。
		2 変化する日本経済	<ul style="list-style-type: none"> ・中央銀行の役割と金融の自由化 ・政府の役割と財政 ・戦後復興と高度経済成長 ・産業構造の転換と国際経済環境の変化 ・バブル後の日本経済 ・中小企業と農業 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央銀行の役割、金融政策の種類と働きについて理解し、金融の自由化、国際化の動きや背景について考察する。 ・市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済的な活動について理解すると同時に、財政制度、租税と公債、財政問題について考察する。 ・第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革や高度経済成長の経過や背景について理解する。 ・石油危機や産業構造の変化、為替相場制度の変更、ブラザ合意と円高不況、日米経済摩擦について理解する。 ・バブル経済崩壊後の「失われた10年」といわれた時期の日本経済について理解する。また、日本経済の現状と課題について、金融、雇用、国際経済などの観点から考察する。 ・中小企業の現状と役割、農業の現状と農業に関する諸政策について理解し、諸課題について考察する。
	11月	3 豊かな生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者への道 ・労働者の権利 ・現代の雇用・労働問題 ・社会保障の役割 ・環境保全と循環型社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者主権の意味や消費者問題の背景、消費者運動、消費者行政と関連法制の概要を理解し、消費者の自立に向けた取り組みについて考察する。 ・労働契約の特性、労働組合、労働運動、労働者の権利の必要性、労働に関する法制を理解する。 ・バブル経済崩壊以降の労働や雇用環境の変化、労働や雇用にかかわる様々な課題について理解する。 ・社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制度の概略について理解し、少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。 ・高度経済成長に起きた公害問題とその後の公害対策、新しい公害と環境保全について理解し、今後における持続可能な社会、循環型社会について考察する。
12月	1 民主政治とは	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立 ・基本的人権の確立 ・世界の政治体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治がヨーロッパで生まれた経緯や社会契約説、権力分立の思想、議会制民主主義の成立と仕組みについて理解する。 ・基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の国際的な展開について理解する。 ・議院内閣制と大統領制の特色を三権の関係などの視点から理解するとともに、社会主義国の政治体制について理解する。 	

学習内容の流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
	1月	2 日本国憲法の基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法と三つの原理 ・基本的人権の保障 (1) ・基本的人権の保障 (2) ・新しい人権と人権保障の広がり ・平和主義と安全保障 	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の性格を学ぶとともに、日本国憲法が制定されるまでの経緯について学習し、日本国憲法の三大原理について理解する。 ・日本国憲法における人権保障の基本的な考え方や法の下での平等の意義、自由権的基本権について理解する。 ・社会権的基本権の意義、生存権、教育を受ける権利、勤労権などの内容について理解する。また、基本的人権を実現するための権利などについても学習する。 ・環境権、プライバシーの権利、知る権利、アクセス権などの新しい人権について性格を理解するとともに、人権保障の進展と課題について考える。 ・日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊のかかわり、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察する。
	2月	3 日本政治機構	<ul style="list-style-type: none"> ・国会と立法 ・内閣と行政 ・裁判所と司法 ・地方自治 	<ul style="list-style-type: none"> ・三権の関係について理解し、国会の役割、構成と運営、現状と改革の動きについて考察する。 ・議院内閣制の仕組み、内閣の権限と国の行政組織を理解するとともに、行政にかかわる課題について考察する。 ・訴訟の種類、司法権の独立の意義と内容、日本の裁判制度、「憲法の番人」としての裁判所、裁判員制度などの司法制度改革について理解する。 ・地方自治の意義を確認すると同時に、地方公共団体の組織と働きなどについて理解し、地方自治と国政との関係、住民の政治参加の意義などについて考察する。
	3月	4 現代政治の特質と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙のしくみと課題 ・政党と利益集団 ・世論と政治参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代選挙の四原則、選挙制度の概要、日本の選挙制度の仕組みについて理解し、「一票の格差」など選挙制度をめぐる課題について考察する。 ・民主政治における政党や利益集団の意義と役割、現状と課題について考察する。 ・世論の意義を理解し、世論とメディアとの関係、大衆化した社会における政治意識などについて考察する。
学習の留意点・評価など	<p>現代社会のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断することができたか。 他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることができたか。</p>			
備考				

教科名	公民科	科目名	社会問題
対象学年	高校2年	コース・選択	コースI（2選1）
単位数	2単位	教科書 (出版社)	—
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・自作プリント ・その他 		
学習のねらい	<p>年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。</p>		
学習内容と流れ	学期・月等	学習内容	留意点
	年間	「ともに生きる」を年間テーマとして、新聞記事の収集やフィールドワークなどをおして、よりよい社会の在り方について探究する。	・日頃から新聞に慣れ親しみながら、社会への興味・関心を高める。
	4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞の読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の構成・概略など ・新聞記事の収集方法など ○テーマ1「環境」 <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の読み方について、新聞の構成や記事の収集方法について理解するとともに、新聞から情報を収集する場合には、できる限り複数の新聞社の記事を用いる必要があることなどに留意する。 ・「環境」の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ2「生命」 <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	8月	○夏休みを利用した新聞切り抜きレポートの作成	・新聞切り抜きのレポートを作成して、「社会問題」の現状と課題について、より深く考察する。
	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞切り抜きレポートの発表 ○テーマ3「平和」 <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○修学旅行に関連した「平和」に関するレポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめて、誰にでもわかるように発表する。 ・「平和」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・訪問先である長崎について、「平和学習」の観点から各自でテーマを設定して調査し、レポートにまとめる。

	学期・月等	学 習 内 容	留 意 点
学習内容の流れ	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ4「貧困」 <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・「貧困」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ5「ジェンダー」 <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○新聞記事を通した「POSTER-Q」(ポスターセッション) <ul style="list-style-type: none"> ・「新聞切り抜き作品」に基づく質疑応答型プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・要点をまとめて発表させるとともに、他の生徒の発表をよく聞いて、積極的に質問する。
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・新聞記事などとおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。 		

教科名	公民科	科目名	社会問題
対象学年	高校3年	コース・選択	コース I (A1)
単位数	2単位	教科書 (出版社)	—
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・自作プリント ・その他 		
学習のねらい	<p>年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。</p>		
学習内容と流れ	学期・月等	学 習 内 容	留 意 点
	年間	「ともに生きる」を年間テーマとして、新聞記事の収集や専門的な講義などをおして、よりよい社会の在り方について探究する。	・日頃から新聞に慣れ親しみながら、社会への興味・関心を高める。
	4月 5月	○テーマ1「ジェンダー」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「ジェンダー」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	6月 7月	○テーマ2「貧困」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「貧困」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	9月 以降	○「社会問題」に関する講義 ・レクチャー ・まとめ・表現	・「社会問題」に関する専門的な講義を受け、高校で学んだ内容についての理解を深める。さらに、「ともに生きる」ことができる社会人になるために必要なことを自覚する。
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・新聞記事などをおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。 		